

赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト 第2回助成決定に当たって

1. 選考の過程

「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」第2回助成に当たり、事務局では2014年7月より以下の3つの視点から490の候補団体をリストアップしました。

- ① 子どもに関する支援を行っている団体で、過去に赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(ボラサポ)に応募したことがある団体
- ② 岩手・宮城・福島県共同募金会で把握している子どもに関する支援を行っている団体
- ③ 被災県の状況に詳しい助成団体からの推薦団体

以上の結果抽出された候補団体の中から、本プロジェクトの主旨に鑑みさらに以下の5つのポイントを勘案し候補先の絞り込みを行いました。

- ① 現在も岩手・宮城・福島県内での子ども支援活動を継続しており、いずれかの県に活動拠点を置いている団体
- ② 岩手・宮城・福島のいずれかの県内での活動実績が1年以上ある団体
- ③ 一定の活動規模がある団体
- ④ 活動経費の大半が行政の補助金以外の団体
- ⑤ 活動について、インターネットや其他媒体を活用して積極的に情報発信を行っている団体

この絞り込みの過程において候補団体は17団体に絞られ、選出委員会による1次審査を行いました。1次審査は事務局および被災県の助成団体からの推薦コメント、また各団体が発信しているインターネットによる情報発信の内容を元に行い、その結果8団体を選出しました。

1次審査で選出した8団体に対して事務局から助成の概要を説明し応募する意思を確認したところ、条件に該当する7団体から助成申請をしたい旨の意思表示がありました。この7団体には必須書類と提案書を提出いただき、それを元に選出委員と事務局が2014年10月から11月にかけて現地ヒアリング調査を行いました。

この現地ヒアリングの結果を踏まえて、11月20日に第2回選出委員会を開催し、厳正なる協議の結果5団体に対する助成を決定しました。

2. 選考の論点

第2回選出委員会では、ヒアリング等でも確認した以下の点について、特に協議を行いました。

- ① 対象となる子どもとその保護者、周りの地域にとって本当に必要とされている活動なのか
- ② 活動の必要性が東日本大震災による被害等に起因しているか
- ③ 助成金額に対する受益者数の割合は妥当か
- ④ 実際に助成をしたときに活動する場所が確保できるのか

- ⑤ 人員確保など、活動を行うための運営体制は整うのか
- ⑥ 助成終了後も活動を継続できる財政面の見通しはあるか
- ⑦ 助成終了に際して、組織基盤への影響は生じないか

①～③は、そもそもの活動の必要性という点です。助成が決定した5団体の活動は、震災が起こったことによって特に支援の必要が生じた活動でした。震災前から元々行っていた活動の単なる延長ではなく、今の被災地で必要とされている活動であることを確認しました。

④～⑤では活動の実現性、⑥～⑦ではこの助成金が団体にとって活動を支える資金になるのかどうかという点を確認しました。助成することで拡大する団体の活動ですが、助成終了した後も職員の雇用等を含め継続して維持できる見通しが立っているのか、団体に過度の負担が生じないのかどうかについても議論を行い、最終判断の材料としました。

助成終了後の活動の継続に関しては、5団体は行政の事業を受託することや、会費・寄付を増やすことなどによる自主財源の確保など、いくつかの方法を並行して検討していることがわかりました。複数の団体から「助成はいつまでも続くものだとは思っていません」という声があったことが印象的でした。

助成を決定した5団体は、活動の対象を子どもとしながらも、子どもに対する支援を行うことで地域のコミュニティをつくること、そのことにより途切れてしまった関係をつなぎ直すことを意識していました。子どもをきっかけとすることで大人もつながることができるという考えに基づき、さまざまな工夫が凝らされており、選出委員会ではこうした点を高く評価し、5団体の提案について助成を決定しました。

残念ながら不採用となった2団体についても、活動自体は高く評価されました。しかし活動する場所の確保に関する実現性、助成金額と比較して支援対象となる人数の少なさなどが課題となり、今回の助成を見送りました。

3. 終わりに

赤い羽根チャリティホワイトプロジェクトは、ソフトバンクのチャリティホワイトに加入する皆さまのご寄付を財源として実施されています。毎月寄付をしていただいている皆さまに、被災地の子どもたちが現在どのような状況にあり、どのような支援が行われているのか、その様子を定期的にご覧いただくことで毎月の寄付がどのように活かされているのかを実感を持ってご理解いただきたいと思います。震災から丸4年を目前とした今、東日本大震災への寄付、また支援活動に対する助成は日に日に少なくなってきています。そのような中、180万人以上の方が継続して毎月寄付をしてくださるチャリティホワイトのしくみは被災地で暮らしている子どもたちにとって大変大きな支援になっています。

選出委員会では、現地ヒアリングの際に180万人の皆さまに支えられている赤い羽根チャリティホワイトプロジェクトの趣旨についてすべての団体に十分に説明し、皆さまに対して丁寧な情報発信を行っていただくようお願いしてまいりました。チャリティホワイトにご参加いただいている皆さまには、団体による活動現場からの情報発信をホームページ等でご覧いただき、被災地の子どもたちと一緒に育てる気持ちで応援を続けていただけたらと切に願っております。

以上
赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト
選出委員会 委員長 田中 皓